

比較表	鹿島神宮	香取神宮	備考
創建	神武天皇元年	神武天皇18年	鹿島神宮の方が創建は早い
社格	式内社(名神大社)、常陸国一宮、旧社格は官幣大社、別表神社、鹿島神社の総本社	式内社(名神大社)、下総国一宮、旧社格は官幣大社、別表神社、香取神社の総本社	社格は同等と言って良いか…
日本神話と祭神	祭神はタケミカヅチ(武甕槌/建御雷)とされ、日本神話の天孫降臨に先立つ葦原中国平定において大国主の国譲りの際に、建御名方神(諏訪大社の祭神)との力比べ(相撲の起源?)を制するといった活躍をし、神武東征に際しては、初代・神武天皇に神剣(布都御魂)を授けたと言われる	天孫降臨に先立つ葦原中国平定において、タケミカヅチ(鹿島神宮祭神)とともに出雲へ派遣され、大国主の国譲りに関しては活躍する経津主神(フツヌシ)を祭神とする	葦原中国平定において、天照の最初に目に留まったのは、経津主神(フツヌシ：香取神宮祭神)であったが、活躍そのものは、タケミカヅチ(武甕槌/建御雷；鹿島神宮の祭神)の方が上と言って良いか…
大和政権との関連	朝廷(大和政権)から軍神として、そして蝦夷の平定神として信仰され、蝦夷進出の輸送基地の役割を持ち、古代に広がっていた香取海という内海において、両神宮はその入り口を扼する地勢学的重要地に鎮座している		現利根川＝香取の海を挟んで、北側に鹿島神宮、南側に香取神宮の配置となっており、蝦夷に直接相対するのは、鹿島神宮？
徳川将軍家とのかわり	本殿・石の間・幣殿・拝殿からなる主要社殿は、いずれも江戸時代初期・1619年に江戸幕府第2代徳川秀忠の命によって造営された建造物	江戸時代の1700年に、江戸幕府5代将軍の徳川綱吉の命により、本殿・拝殿・楼門が整えられた	徳川将軍家から先に庇護を受けたのは、鹿島神宮？
東郷氏書の扁額	初代水戸藩主の徳川頼房の命による造営と言われる楼門上の扁額「鹿島鳥居」は東郷平八郎の書	楼門上の額は、鹿島神宮同様東郷平八郎の筆と言われる	東郷平八郎も、鹿島/香取の両軍神に対し、同じ様に対処した？
要石(かなめいし)	要石(凹型)がある	要石(凸型)がある	鹿島/香取両神宮が力を合わせ、この地を地震から守っている？
藤原氏とのつながり ⇒ 春日大社	藤原氏から崇敬され、奈良時代の768年には、藤原氏の氏社として春日社(現・春日大社)が創建された際には、鹿島神宮が第一殿に勧請されおり、建御雷神(＝武甕槌神＝鹿島神宮祭神)は中臣氏(藤原氏の前身)の祖先にあたるとも言われるらしく、春日大社の神使・鹿は、鹿島神宮から建御雷神(＝武甕槌神＝鹿島神宮祭神)が、白い鹿に乗って来た事に由来するらしい	藤原氏から崇敬され、奈良時代の768年には、藤原氏の氏社として春日社(現・春日大社)が創建された際には、香取から経津主命(第二殿)が勧請された	両神宮とも藤原氏と深い関わりがあるようだが、その深さは、鹿島の方が深いよ様に見受けられる